

賛育会ニュース

SAN-IKUKAI News



Vol. 639
2017 Winter

社会福祉法人 賛育会
広報誌



心に灯す おもいやりの明かり

一本の藁を献げるような生き方

賛育会病院 チャプレン 山崎正幸



「あなたがたは、布にくるまって飼いで葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つめるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

ルカによる福音書より

イエス・キリストは、誕生された時、ぼろ布にくるまれて飼いで葉桶に寝かされた。聖書は伝えてあります。

ある日本人の神父が、マザー・テレサ生前中に、マザーのもとでボランティア活動をしていた頃のクリスマスへの思い出を語っています。

マザー・ハウスでは、クリスマス季節になると、礼拝堂に空の飼いで葉桶が置かれ、その傍らには藁の束が積み上げられていました。マザー・テレサはボランティアを集めて語りかけました。

「クリスマスを迎える季節、神様のために何かを犠牲にする度毎に、飼いで葉桶に一本ずつ藁を入れて下さい。犠牲を献げることで心の中にはイエス様を迎えるための場所が出来ます。執着心や自分本位の感情を手放すならば、私達の心にはイエス様を迎えるための場所が出来ます。あなたがたの心にはイエス様を迎えるための場所が準備される頃には、飼いで葉桶も藁で一杯になるでしょう。」

この神父は、ボランティアとして

働いている「死を待つ人の家」まで、バスを使わず今日は歩いてみよう。楽を求めぬ気持ちを一歩だけでも神様に献げてみよう。そう思つて、神父はさつそく歩き始めました。最初はなかなかよい気分でした。しかし歩いても歩いても「死を待つ人の家」に近づきません。ようやく辿り着いた時には、顔は真っ黒に汚れ、サンダルを履いた足の指の間には血が滲んでいました。ボランティアの仕事が終わり、飼いで葉桶の前に直行した神父は、飼いで葉桶に藁を入れながら祈りました。「バスに乗れない貧しい人達が、どんな思いで道を歩いているのか教えて下さり、ありがとうございます。彼らの長い道のりの傍らに、いつでもキリストがいて下さいますように」。祈り終えた神父の心には、マザー・テレサが語った言葉が改めて響き渡ってきたのでした。

イエス・キリストは目には見えませんが、私達と共にいて下さいます。その姿を、一本の藁を献げる時、見ることが出来るのです。

教会の暦ではクリスマス季節から新しい年が始まります。「一本の藁を献げるような生き方」を、新しい年を歩み出す私達へのメッセージとして受けとめたいと思います。

SEAP2016が開催されました！

賛育会 エクセレント アクティビティーズ アンド プロジェクト

～ San-ikukai Excellent Activities and Projects ～

2016年11月12日（土）に東京清風園地域交流スペースにて、San-ikukai Excellent Activities and Projects（賛育会エクセレントアクティビティーズアンドプロジェクト）、通称SEAP（シープ）2016が開催されました。

このSEAPは従来の賛育会論文の生まれ変わったものです。「賛育会の各拠点における素敵な取り組みを、法人全体で共有して、各拠点での実践のレベルアップにつなげていく」という趣旨は、論文の時と変わりません。より取り組みの様子が分かりやすく、また、たくさん集まるように、プレゼンテーションで発表・選考をおこない、最優秀賞・優秀賞を受賞した発題については、論文としてまとめて3月の創立記念式典で発表することになります。

第1回目となるSEAP2016では、全事業所から合計14件の応募があり、4時間に及ぶ白熱した発表会となりました。

発表会後、審査委員会にて厳正な審査が行われた結果、次のような結果となりました。最優秀賞には各10万円、優秀賞には各5万円が贈られます。受賞した皆さん、おめでとうございます！

最優秀賞：2作品（発表順）

「『こんにちは茶屋』立ち上げ」

～認知症高齢者に対する地域住民の理解を得るための活動について～

福岡 正淑

（はなみずき高齢者支援総合センター 主任）

渡邊 隆

（はなみずき高齢者支援総合センター センター長）

「5歳児の保育における

百人一首を通じた学びのプロセス」

今野 久美子

（さんいっく保育園清澄白河 保育主任）

栗原 玲香
（さんいっく保育園清澄白河 保育士）

優秀賞：3作品（発表順）

「手指衛生向上への取り組み」

～直接観察法を用いて～
谷畑 利子（賛育会病院 看護部 看護科長）

「認知症のBPSD緩和の為の、

ユマニチュードケアの取り組み」

～優しさを伝える認知症ケアの実践～
小松 恵利子（丘の家清風 介護主任）
宮野 文香（丘の家清風 介護員）

「小児科紹介件数増加」

～医療機関訪問と症例検討会を中心として～

松岡 聡（賛育会病院 地域連携室 主任）

富永 千晶（賛育会病院 地域連携室 課長）

村山 謙一郎（賛育会病院 地域連携室 係長）

森 尚子（賛育会病院 地域連携室 主任）

柴本 美帆（賛育会病院 地域連携室 医療相談員）

大河原 花子（賛育会病院 地域連携室 医療相談員）

秋本 絹江（賛育会病院 地域連携室 事務員）

※氏名は代表者を先頭に、

以下エントリースト記

載順

審査員長

審査員

齊藤 實氏

井口 延氏

植 清輔氏

住田 学氏

関根 義夫氏

堀 建二氏

柳沼 恵一氏

※審査員氏名は五十音順



高齢者の集いの場
「ふらっとルーム新川」



「ふらっとルーム新川」
 昨今、以前のよう
 な近所同士の関わりが減り、地域の繋がりが希薄化している中、高層マンションが多く建ち並ぶ中央区もその例外ではありません。区が65歳以上の区民を対象とした調査によると、同居高齢者は全国平均に比べ多く、「近所と親しく付き合っている」「人と毎日話をする」と答えた人の割合は、全国平均を大きく下回る結果が出ています。

そのような背景の中、今年度4月より、区内では地域介護予防活動支援事業の一環として、孤立や引きこもりがちな高齢者が気軽に集える場所を作り、高齢者が支えあえる地域づくりを推進するために、3箇所の「通いの場」が立ち上がりました。マイホーム新川では、そのうち京橋地区のモデル事業として「ふらっとルーム新川」の運営を受託しました。ボランティアさんと協力し、週1回近隣の区民館で、皆さんと体操をしたり、講座を開いたり、お茶を飲みながら世間話をしたりと、楽しみながら活動をしています。この活動を通じて、地域の中で互助の力が強く構築され、同居高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を送れるよう支援を継続したいと思っています。

クロスアップ 賛育会

特別養護老人ホームたちばなホームの介護員、栗原美さんを紹介いたします。栗原さんは、2010年に賛育会入職、たちばな高齢者在宅サービスセンター(デイサービス)に配属され、2012年に現部署の介護課に異動、現在はフロアリーダーを任せられ、物腰も柔らかく笑顔が素敵な利用者さんからも人気のある職員です。

栗原さんは自身の motto として、普段から利用者さんに「楽しい」「嬉しい」「落ち着く」「頼もしい」、そんな居心地の良さや心強さを少しでも感じて頂けるような介護員を目指しています。

そんな栗原さんが、介護の道を志そうと思ったキッカケを話してくれました。

「私には中学生の頃から、不登校児童・生徒や学校生活での悩みを抱える子供たちの、心のケアをするカウンセラーになる夢がありました。その為に大学では、心理学を専攻していました。進学が就職かという分岐点に立った時に、新たに高齢者福祉の道も考えるようになりました。」

高校3年の夏、一緒に暮らしていた祖母が入院中の事故により頸椎を損傷し、寝たきり状態になってしまいました。その後、胃ろうも造設し、入院生活を続けていました。ある日、家族で見舞いに行った際、祖母の枕元にアロマオイルが焚かれているのを見つけました。それは家族が用意したものではなく、看護師さんが「少しでもリラックスできるように」と用意してくださったものでした。その些細な心遣いによって、看護師さんも家族と一緒に頑張って祖母を支えていると、非常に心強さを感じました。また心のケアを行うには、なにも専門的な知識を身に付け、直接対する方法だけではないこと、そして、私自身が祖母を支えていくことに不安を抱いていた、と気付いたのでした。

高齢者自身だけでなく、その方を支える家族にも多くの不安が付きまとっていると思います。その不安を少しでも解消するためのお手伝いが出来ればと思います。高齢者福祉の道に進もうと決心しました。まだまだ未熟な介護員ですが、今後も精進あるのみです。」



ご利用者と栗原さん(右)

ピックアップ 新入職員の声! Vol.12

一緒に働く新しい仲間をピックアップでご紹介



【趣味・特技】映画鑑賞
【マイブーム】甘いものの後にしょっぱいものを食べる
さんいっく保育園有明
伴 真美子(保育士)
(2016年10月採用)



【趣味・特技】アロマのブレンド作り
【マイブーム】おいしいコーヒーを飲みに行くこと
さんいっく保育園有明
飯塚 政子(保育士)
(2016年4月採用)



【趣味・特技】猫と戯れること
【マイブーム】卓球
東海清風園
中嶋 勇司(介護員)
(2016年4月採用)



【趣味・特技】野球観戦(阪神)
【マイブーム】1歳の息子と遊ぶこと
東海清風園
澤田 大介(介護員)
(2016年11月採用)



【趣味・特技】水泳
【マイブーム】ヨガを極めること
はなみずきホーム
遠藤 順子(看護師・保健師)
(2016年4月採用)



【趣味・特技】子どもとおいしいものを食べに行くこと。ものまね。
【マイブーム】四季折々の花鑑賞の旅
はなみずきホーム
菊地 幸子(看護師)
(2016年4月採用)

介護用リフトの導入

介護職員が行なう生活支援の中でも、多くの職員が身体に負担を感じていると言われているのが移乗支援です。各施設の職員アンケート等においても、特に移乗や入浴支援の際に腕・肩・腰等に負担を感じているという結果が得られています。

また、平成25年には厚生労働省が、社会福祉施設での腰痛発生率の急速な増加等を理由に、当時としては19年ぶりに「職場における腰痛予防対策指針」を改訂し話題となりました。

このような状況下において、賛育会は今年度から、職員の介護負担軽減・腰痛予防、さらに利用者が安全・安楽な移乗支援が受けられることを目的として、法人内の介護・リハビリ両グループが連携し、介護用リフト導入の取り組みをすすめています。

介護用リフトとは、自力で移乗移動できない利用者をスリングと呼ばれる布製シートを使って持ち上



げ、ベッドから車いすへの移乗やトイレ・浴室等への移動を補助するもので、キャスターで床を移動する「床走行式」、浴室や居室等に固定設置し昇降移動する「固定式」、ベッド上等にレールのやぐらを組んで移動する「据え置き式」等があります。介護用リフトによる移乗支援は、職員の負担軽減はもちろんのこと、人力による無理な移乗で起こる利用者のケガ予防、オムツからトイレへ、機械浴から一般浴槽へといった生活改善等の効果が挙げられます。

上半期、介護・リハビリ担当者がそれぞれ意見を出し合い、介護用リフトを各施設の状況に応じて有効活用するための話し合いやリフトの選定が行なわれました。そして11月、賛育会の特養・老健等11施設において、床走行式や固定式等、計15台のリフトが導入され活用がすすめられています。今後は、リフト定着に向けた、移乗アシメントシート作成やリフト操作フォローアップ研修の企画実施、各施設でのチーム体制づくりを行なう予定です。今回の介護用リフト導入

により、職場環境が少しでも改善され、職員が自らの健康を保ちながら利用者へのサービスや生活の質の向上につなげられるよう、介護・リハビリ両グループがさらに連携を深め、取り組みをすすめていきたいと思えます。



法人・事業所行事

- 1月11日 お魚解体ショー（さんいく保育園有明）
- 1月24日 お店やさんごっこ（さんいく保育園清澄白河）
- 2月4日 おもちゃホスピタル（さんいく保育園清澄白河）
- 2月16日 第3回 地域連携の会（賛育会病院）
- 2月21日 音楽コンサート（さんいく保育園有明）
- 3月3日 ひなまつり（さんいく保育園清澄白河・有明）
- 3月4日 卒園式（さんいく保育園有明）
- 3月11日 卒園式（さんいく保育園清澄白河）
- 3月18日 賛育会創立記念式典
- 3月31日 進級式（さんいく保育園清澄白河・有明）
- 4月3日 入園式（さんいく保育園清澄白河・有明）
- 4月9日 たちばなホーム 創立20周年記念式典
- 4月14日 第二清風園 創立20周年記念式典

賛育会ニュース 第639号 2017年冬号

編集発行人…西原良信

発行所…社会福祉法人 賛育会

東京都墨田区太平3-17-8

電話 03-3622-7614

印刷…(有)エースプリント